

消防広域化の効果を検証

富士山南東消防本部の誕生から 4 月で 1 年

2市1町（裾野市・三島市・長泉町）の消防の広域化の効果が表れています。ここでは、地域住民の安全・安心に向けた取り組みを紹介します。

※この記事は、2市1町の合同特集です。

富士山南東消防本部総務課

☎972-5801



効果 1 初動体制・増援体制の強化

災害現場では、初期段階でいかに多くの人員・車両を迅速に投入できるかが重要です。この初動で出動できる緊急車両の数が、広域化前には裾野市で4台、長泉町で3台だったものが、それぞれ6台に増加し、現場活動要因も6人～9人増員しました。また、他の災害対応などで、管轄の緊急車両が不在のときでも、他署から駆けつけることができるようになりました。

効果 2 予防業務の強化

不特定多数の人に利用される建造物や危険物取り扱い施設の検査・指導をする予防業務の体制強化を図りました。前年度653件だった防火対象物への立入検査実施数は、678件（予定）へ増加しました。このほか、普通救命講習や応急手当普及員講習など住民を対象とした講習会の充実や、消防団の合同訓練の実施など、安全・安心に向けた取り組みを進めています。



幼稚園児の声援の中、大会に向けた訓練

効果 3 現場到着時間の短縮

消防広域化前の平成27年は、管轄区域を越えた救急応援出動の年間件数が30件に対し、平成28年の広域化後は299件に増加しました【表1】。頻繁に市町の境を越えて救急車が出動しています。

広域化により、119番通報後ただちに直近の署所からの出動ができるようになったことから、市町境の地域を中心に、現場到着時間が短縮しています【表2】。

平成28年の救急出動8,160件のうち管轄区域（市町境）を越えた件数【表1】

三島からの出動	115件(長泉106件、裾野9件)
裾野からの出動	94件(三島68件、長泉26件)
長泉からの出動	90件(裾野51件、三島39件)
合計	299件 (長泉132件、三島107件、裾野60件)

現場到着平均時間の短縮（消防車・救急車）【表2】

地域	広域化前 (平成27年 4月～9月)	広域化後 (平成28年 4月～9月)	短縮時間
三島市佐野	11分48秒	8分06秒	3分42秒
裾野市水窪	7分12秒	6分12秒	1分00秒
長泉町下土狩 (南東)	6分48秒	6分27秒	21秒

※現場到着平均所要時間は、119番通報を受け付けてから現場に到着するまでに要した平均的な時間を表しています。

効果 4 高機能な車両・資機材の導入

「はしご車」や「化学車」、山間部での火災や高速道路での車両火災など、水利が不足する現場で活躍する「大型水槽車」など普段出動回数が少ない特殊車両を共有しています。

特殊車両をはじめとする車両・資機材は、高価で維持管理にも多額の費用を要するため、単独の消防本部で運用するには、財政に大きな負担が掛かります。そこで、広域化によるスケールメリット（規模の経済性＝大規模化による利益）を生かし、計画的に整備を進めています。今年度は、消防ポンプ車1台と救急車1台、資機材搬送車1台を更新しました。

消防職員に聞いた実感



Q 実際にメリットとして感じたことは？

星屋 新東名は従来長泉町の管轄で、車両火災は長期になることが多く、非番者を招集するなどして、次の出動に備えていました。広域化によりバックアップ体制ができたことで、それがなくなりました。また、水利が不足しがちな車両火災では、大型水槽車の確保ができるようになりました。



星屋亮
(長泉消防署)



鈴木 先日、新東名での車両火災に出動しました。また、NEXCO 中日本と、高速道路での事故を想定した合同訓練も実施しました。これらの経験やノウハウは、伊豆縦貫道での活動に生かされます。

大竹 東名は裾野市の管轄でした。出動の際、裾野市は下道から、三島市と長泉町は本線からなので、それぞれ状況を確認しながら現場へ向かえるのは大きなメリットです。裾野市は山を抱えています。山林火災は長期に及ぶことが想定されるので、心強いです。



大竹勇気
(裾野消防署)

Q 現場以外（訓練など）での気づきや、感じたことは？

鈴木 先日、取り壊し中の県営住宅で連携強化に向けた訓練を行いました。広域化でさまざまな技術や知識を持った職員が増え、訓練後の検証会での、意見交換の幅が広がりました。



鈴木雅人
(三島消防署)



Q 住民対象の講習会などでの変化は？

星屋 応急手当普及員講習は、長泉町では行っていませんでした。広域化により、本部（三島消防庁舎）開催の講習会に参加し資格を取得した事業所の人々が、これからは職場で普及活動をしてくれます。

Q 管内の住民に伝えたいことなどがあれば

大竹 現場到着平均所要時間の【表2】では、何分何秒短縮とありますが、普通の人には、「たった1分、たった1秒」と感じられると思います。救急救命の初期では、この「たった1分」がとても重要なのです。火災では、「たった1分」で火が燃え広がってしまうことや、救える命があります。この「短縮された“たった1分”」の意味を皆さんに伝えていきたいです。